

(様式3)

自己評価結果票 (1F)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・地域密着型サービスの意義を理解し 「しおさい利用者の思いや意欲を大事にし地域住民の交流の元サービスの質の向上を目指しいつも笑顔で支援します」との理念を掲げています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・朝礼で理念を唱和し、利用者が自由に日常生活が送れるよう、理念の実践に取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・入居申し込み・契約時には、しおさいの理念を伝え、理解して頂いている。又、運営会議・慰問時・ゴールド便りを活用し伝えている。</p>	
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・季節行事の参加 毎朝の散歩で挨拶を交わしたり地元の方と顔馴染みになっている。ホームの畑で取れた野菜をおすそわけしたり、近隣の方参加の元芋ほりをして一緒に楽しんでいる。又、近隣の方に参加して戴き防災訓練も行っている。全島清掃日にも参加し交流を図っている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・自治会が行っているサロンに毎月参加、近くの高校・小学校行事に招待され参加している。又、高校生の実習も受け入れている。公民館活動の音楽にも参加している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・地域の方々から認知症介護の仕方の相談を受けたり、実習生の受け入れも積極的に行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員会議でサービス評価の意義や目的を伝えた。自己評価は全職員で行なう。自己評価を通じて地域との繋がりを更に意識した。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>市の職員、民生委員、町内会長、社協、家族代表、利用者代表、職員等で2ヵ月に1回開催している。会議を通じてホームへの理解が深まり、利用者と散歩時に挨拶から声かけが始まり地域との繋がりが密になったのを実感しています。</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市主催通所会議や行政の方々とのメールなどにより連絡調整を取っている。法人の広報誌を届けて、情報提供を行っている。利用者の紹介もしてもらおう等、市の担当者のホームに対する理解が深まってきている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>開設よりまだ活用したケースがない。職員全体としては、まだ理解できていなく必要な時に支援できない。その為には会議、研修等に参加して万全な体制を整えたい。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会等を実施し、高齢者虐待防止に関する理解をし、取り組んでいる。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5.人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で生活状況、状態を把握するように努めホームに来設して頂き、不安を取り除く働きかけをしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの相談などがあれば管理者、計画作成担当がその都度相談にのっている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の話し合いの中で、状況の確認をし可能な限り対応し、他事業所と調整も考えながら対応している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に見学してもらったり、一日体験でホームの雰囲気を味わって頂いた上、納得してもらおうよう努めている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日頃から人生の大先輩としての利用者には、教えて頂く姿勢でいる。掃除、洗濯、炊事は利用者と一緒にコミュニケーションを取りながら家族のように接している。また感謝の気持ちを忘れず お互いが協働して過ごし支え合っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者個々に担当者がつき、利用者の状況は家族と蜜に連絡をとり、些細なことでもコミュニケーションを図り、サービスの向上を図っている。		
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を進め、行事等に家族を誘い、良い関係に心がけている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域での行事・サロンへ参加する事で馴染みの人との交流。訪れて来た方を向かい入れ利用者との時間を過ごしてもらえよう場作りを大切に考えている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の生活の中で利用者同士の状況や関係を把握しながら、職員は常に声かけしている。共同生活をすることで良い関係を作っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他病院 施設に入居されていても顔見せに訪ねたり、家族の方とあった時は「その後は・・・」など尋ねるなり、交流を図っている。行事などにも参加し良い関係を保つようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の表情や、日常生活の中のふとした言葉や行動から意向や希望をくみ取っている。共同生活の中で、他の人がしている事を見て、自分もやって見たいという希望もでてくる。一人の時間を大切にしたい人に応じ場の提供もする。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時のアセスメント等の情報を元に、個々の背景を、生活等の把握をしている。また面会時家族の方との対話、本人との会話の中でも知る事が多い。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や動作を感じ取り全体像を把握する。また状況の変化や体調の変化などは職員の連携で把握する。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意向、家族の意向を出し各利用者の担当者、計画担当者、管理者、看護師と検討してその人らしくホームで暮らせる介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画実施記録やユニット会議での気づきを元に、モニタリングをしている。目標が達成されたり、新しい課題がでるとプランを変更する。変更がなければ六ヶ月で見直しをする。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化を記録し、職員間の情報共有を徹底して、評価の実施をする。ケアプランも評価しやすい記入方法で情報の共有をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム併設事業として、デイサービスを実施しており、外部から3人が利用している。一日の大半を全員がリビングですごし、双方とも和やかな関係づくりができています。またショートステイの受け入れ体制が出来ています。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して生活が続けられるように、警察の巡回をして頂いたり、民生委員さんと、二ヶ月に一回、運営推進会議で話す機会を持っている。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	普段より他事業所とは、連携を密にしており、必要に応じて連携を図っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の参加メンバーに行政の職員が入っているため情報交換はしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院との協力提携、さらに近隣の医院とは予約で24時間対応可能で、月1回往診。状態に応じて往診もして頂ける関係ができています。看護師が主に先生に相談などできる関係作りをしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	総合病院との協力提携、さらに近隣の医院とは予約で24時間対応可能で、希望に応じて往診もして頂ける関係ができています。又、近隣の医院の先生とは状態に応じて密に相談し、状態内容により専門医の紹介もして頂いている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週3日看護師配置、健康管理や医療面の全体把握している。不在時でも同法人の看護師と連携を取れるようにしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時医療機関に情報を提供し、頻繁に職員が見舞いに行き、家族との情報交換に努めている。医療機関のドクター、ナース、相談員にも状況を聞き退院に向けて話し合っ早期退院できるようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、ホームでの対応の限界を説明し、経過ごとに家族と相談しながら主治医の意見を仰いでいる。経口摂取が不可能になったらホームでの生活の限界と考えている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できる限り本人、家族と相談しながら状態を観察し、医療機関と連携を取る。現在のところ、終末期は当ホームでは限界あることを説明している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他のホームに移る場合、アセスメント用紙を渡し、情報の交換をする。事前面接に来た際も詳しい情報を渡し、本人が他の施設に移っても安心して暮らせるよう連携を取っている。</p>	
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>接遇委員会よりの提案で朝礼で個々にCS目標を発言し、利用者のプライドを大切に職員同士で注意しあう。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個々応じた声かけをし、意思疎通ができない人には顔の表情などを察知し、出来るだけ自己決定できるようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりの行きたい所、食べたい物を優先し、出来るだけ其の時の些細な希望も叶えられるように努めている。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>望む美容院へ行かれる方 近隣の美容院に行きたい人など希望を聞く。服装も自分らしくおしゃれをされている方もいる。買い物は思いや状況により選択しをあげ外出をしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事作りを毎日一緒に作り、職員と会話をしながら楽しく、準備 片づけをする。畑の野菜を散歩帰りに取り調理し一緒に頂いている。誕生日には本人のリクエストメニューを取り入れている。</p>	
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物は、職員がひとり一人嗜好物を知っており、本人の希望時や様子や時間を見て飲んで頂いている。現在タバコを吸う方はいないが、喫煙場所は設けている。</p>	
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>その人のアセスメントを知り、排泄表に記入し排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行なう。排泄用品も検討しながら購入している。</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>ゆっくりと気持ちよく入浴して頂いている。家族の希望もあり外出の多い方は入浴日を変え入浴している。入浴拒否の方には時間、日を変え入浴していただいている。</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>生活リズムを掴み、夜間の安眠を図るように日中の充実した活動を心がけている。昼食後個々に応じ休息をとってもらっている。眠れない人には添い寝などして試みている。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>アセスメントを把握し、日常生活の中で得意分野を見つけだし発揮できるように声かけを促している。個々に合った役割を見つけ楽しみとなるように心がけています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理可能な方はいない、預かり袋を渡して支払いをしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族との外食、買い物など出る機会が多い。毎朝、日課としてホーム周辺の散歩を位置付けている。又、月行事計画に外出の機会を設けている。それ以外でも希望があれば状況に応じて外出できるようにしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見、初詣、コンサート、ぶどう狩りなど、年間多く外出している。又新聞広告なども参考にして外出の機会を設けている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用でき家族と電話での会話はできている。前もって家族の了解を得、要望に応じ時間を考え電話する事がある。		手紙などのやり取り(返事)が出来るようにしたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰でも何時でも入って来やすい環境作りをしている。訪問者には気を配り次回又来ていただけるような声かけをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は理解している、危険と思われる行動がない限り、利用者の行動を見守り拘束しないケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を無くしたい為散歩時解放している		帰宅願望者の行動パターンの把握をし解放時間を伸ばしたい。
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員で常に見守りを心がけている。フローアには職員が常時おり、業務分担をしている。場を離れる時は他職員に声かけをして利用者の安全を図っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品は利用者と共に使用する為、利用者の状況に応じ保管し安全を考えて配慮している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐ工夫に取り組み予防措置をしている。是正処置で再発防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回消防署の方の訓練により心肺蘇生法を学んでいる。夜間の緊急対応についてもマニュアルを作成し全職員が対応出来るようにする。。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練として近隣の方参加の元に、避難訓練を実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	常に利用者の様子観察を行い 職員間同士の連携を密にして、状態変化を見逃さない様にし早期発見に努める。責任の所在をはっきり決め対応している。	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	受診後看護師が内服の変更やきずきの面を連絡して頂け、全員が確認出来るようにしている。変更の場合でも朝礼などで伝えている。	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	朝夕の散歩を実施。食事内容も野菜を多く取り入れ水分補給も十分に行い便通をよくしている。又朝食時センナ茶を進め排便チェックにより確認している。	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	毎食後の口腔ケアの実施。個別に声かけし支援している。入れ歯の除菌も行っている。行政の口腔ケア勉強会に参加し看護師より指導を受けている。	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	健康状態の把握を行い栄養バランスの取れた食事の提供を行っている。水分も個人に応じ必要量の確保。食事形態も個々の状況に応じてしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防の知識を理解する為にも勉強会を実施。手洗い、普段より手洗い、嗽の徹底、外部からの侵入を防ぐように配慮している。問題発生があれば看護師からの指導もある。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒・漂白の日を決め衛生管理は行なっている。食材も毎日其の日にくるものを購入。納品時も新鮮かどうか点検をしている。商品に何らかの問題があればその都度交換している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム前には家庭菜園がありベンチを置いている。犬を飼っている事で近隣の方々が散歩の帰り立ち寄ってくれたり、夏野菜などの手入れ時などは近隣の方の指導もある。子供連れの方が時々来てくれる。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口は自宅と同様、表札があり手作りポストがある。季節感を感じられるように、利用者と職員での展示物が作成し飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビコーナーとしてソファを置いている。畳みにはコタツを置きくつろげる場を設定、廊下の突き当たりにも一人に慣れる場作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の雰囲気を感じるように、使い慣れたタンス、テーブル、椅子などが置かれ落ち着いた部屋で生活している。カーテンも好みのカーテンに変更した。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日空気の入替えをしている。冷暖房も外気温との差に気を付け、衣類調節で心がけている。各階に温湿度計を置いて管理している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関前にはスロープがあり、室内はバリアフリー、戸は引き戸、衝撃に優しい床材、手すりがある。毎朝、日課にしているホーム周辺の散歩、口腔体操、リハビリ体操を毎日取り入れ身体機能を生かす環境作りをしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人のアセスメントを把握し、ケアプランに基づいて持てる能力、(トイレ水洗レバーの矢印)残存能力を引き出し自立に向けた支援をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム前には畑がある。季節の野菜・花を植え・作る楽しみ・食べる楽しみを味わっている。玉ねぎ、さつま芋掘りには近隣の方と一緒に収穫します。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (1F)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の散歩：継続は力なりといわれますが、室外 室内の散歩をしている。散歩をする事で筋力強化、気分転換 地域住民の方々と交流に繋がっている。
ホーム前菜園の：季節の野菜や花 植える 作る 収穫する楽しみが生きがいとなっている。